

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106092		
法人名	医療法人社団 三樹会		
事業所名	グループホームきびの里		
所在地	岡山市北区庭瀬149-1		
自己評価作成日	平成28年12月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JievosyoCd=3370106092-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成28年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の特性を活かし、医療との連携を行っている。受診支援・医師の往診・正看護師の配置など、利用者の体調の変化に素早く対応出来る体制をとっている。また地域の町内会に加入して老人クラブや子ども会との交流を図っており、また地域にある短大・大学からも体験学習・ボランティアの受け入れなどを積極的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住み慣れた地域でのその人らしい暮らしの支援に、職員全体で取り組んでいる。残存能力に着目し、持っている能力を発揮し、発表することで生きる力に繋げている。居間には利用者一人ひとりの日々の暮らしの中でのリハビリ目標が掲示してあり、シールを貼っていきながら、達成の喜びを感じてもらっている。母体の病院での看護週間に得意の似顔絵や、折り紙作品を発表する機会もある。法人全体として、地域交流を推進している。共に暮らす地域の一員として、老人会の行事に参加したり、作品を発表したりしている。就業環境が整っており、長く勤めている職員が多く、コミュニケーションも良く図られている。職員ヒアリングで「お互い楽しく仕事をしている」との声も聞き取った。利用者との距離も近く、ここの馴染みの関係が築かれ、穏やかで落ち着いた支援が実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「信頼」という法人の理念を玄関や事務所に掲示し、毎日の朝礼時に職員で唱和を行い意識の向上に努めている。	玄関を入ってすぐの正面に貼ってあり、手書きの花のイラスト入りで来訪者の目にも止まりやすい。「日常五心」と共に毎朝確認され、職員の意識付けを図り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入しており、溝掃除や公園の草取りなどに参加し、町内会総会などへも参加している。事業所の夏祭りへは近隣の方へ声をかけ、老人クラブや子ども会の方達も参加して下さっている。	隣接する大学の学生が、夏祭りやクリスマス会に参加してくれている。定期的な訪問の音楽や書道等のボランティアも多く、地域の人達の支援が得られている。公民館での「おいでんせえ会」に参加したり、来てくれたり、老人会との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にある短大・大学からの体験学習・ボランティアの受け入れなどを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者やご家族の代表にも出席して頂き、現在の取り組みを報告のほか、参加メンバーからいただいた意見や提案をホームで話し合い、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員または地域包括支援センター職員に運営推進会議へ参加して頂き、介護サービス上での相談などにも応じて頂いている。	包括支援センター職員は運営推進会議に出席してくれ、情報を共有し、適切なアドバイスをしてきている。市職員にも、実情を伝え、相談し助言を受ける等、協働関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は可能な範囲内で施錠を行わず、ご利用者が外へ行きたい時には付添にて対応するよう努めている。身体拘束防止に関するマニュアルを用意し、事業所内で勉強会を実施して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年間の研修計画に組み込まれ、職員間の意識の統一を図っている。入居間もない帰宅願望の強い利用者に寄り添い、丁寧に対応していた職員の姿が印象に残った。安全管理委員会を設け、言葉や態度による抑圧にも気を配り、一人ひとりの自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関するマニュアルを用意し、事業所内で勉強会を実施して虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中には、成年後見人制度を申請した方もおられ、書類作成などにおいて、協力・支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に時間を取り、丁寧に説明をしている。改訂については家族会や面会時に説明し、理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、家族会を開催して意見交換を図っている。面会時にも意見や要望を伺い、それを基にしてホーム内で話し合い、反映させている。	来所時に普段の様子を伝え、意見や要望を聞き取る努力をしている。活動への参加や運動を望む家族意見があり、母体病院の理学療法士から指導を受け、生活リハビリを取り入れる等、速やかな対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より管理者やリーダーと職員との意見交換を行い、ミーティングや朝礼にて伝達し、必要時には申し送りノートへ記載して周知を図っている。また年2回、人事考課のフィードバック面接を行い職員の意見を聞くようにしている。	日頃からコミュニケーションが良く図られており、職員の思いは貯め込むことなく伝えられているようだ。職員意見から、手作り食事会や、ユニット全員での外出が実現し、利用者と一緒に職員も楽しんだ。在宅ケア会議や管理者会議で上部に伝える仕組みも整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるように働きかけている。また、能力給を導入し、努力が処遇に反映できる制度となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を随時提示し、職員が選んで研修を受けている。法人内の勉強会にも参加しており、事業所内での勉強会は様々なテーマを挙げて、それぞれ担当を決めて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議へ地域の同業者に参加して頂き、相互の情報交換を行っている。また、お互いの行事に参加させていただくなど、交流する機会づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご利用者の状態を理解し、より信頼関係を構築しやすい環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に時間を取り、ゆっくり話を伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時にじっくり話を聞き、ニーズを把握して、確認するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事、得意な事を勧めつつ、時には一緒にいたり、職員の知らない事であれば教えて頂くことで、共に支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は何時でも自由とし、自室でもホールでもゆっくり話していただけるよう配慮している。面会時には最近のご様子を伝える。通信やブログで行事などの様子を報告しているが、現在リニューアルのため休止中。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に愛用されていた物の持ち込みを勧めている。また、外出・外泊はいつでも歓迎している。	家族の協力を得て、自宅に戻ったり、外出して食事を楽しんだりする利用者もいる。職員と喫茶店や寿司屋に行く事もある。近所の人や友人が訪ねて来てくれることもある。これまで培ってきた社会性が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・お茶・レクリエーション等、皆で楽しく過ごす時間を持つようにしている。また、職員が調整役となり利用者同士の関係が円滑になるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への入院により利用が終了した場合は、職員や他の利用者がお見舞いに行く等の対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員ごとに担当するご利用者を定めて、日々の関わりの中で傾聴を心掛けている。またご家族との意見交換の中心的役割も担い、希望・意向の把握に努めている。	現状を理解している担当職員が中心で検討するが、申し送りノートやミーティングで確認し、職員全員で共有し把握に努めている。似顔絵描きや書道等と、好きな事や得意な事を見つけ、病院の看護週間に発表の場を設け、意欲に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談および他施設からの情報提供により、ご利用者の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月ユニットミーティングにてご利用者の現状について話し合い、ご利用者一人ひとりの生活リズムを理解するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族と話し合い、ご利用者のアセスメントを行い、毎月のミーティングで職員間でも意見交換をしながら、ケアプランを作成している。	担当職員が情報収集し、ミーティングで話し合っている。月間目標を挙げ、モニタリングを繰り返し、現状に即した計画作成に努めている。1年～半年で見直し、変化があればその都度再検討し、作り直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の観察記録を用いて日々の暮らしの様子を記入し、また一ヶ月ごとの健康チェック表では食事量・水分量・服薬・排泄などを記載して、情報の共有とケアプランへの活用に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の意向を配慮し、ご家族に宿泊もして頂けるよう準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、民生委員や地域包括支援センター職員より、周辺情報に関する情報をいただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別で月2回法人内病院の主治医による往診を実施している。他の医療機関受診の場合は、ご家族に付添っていただいている。	家族や本人の希望で、これまでのかかりつけ医を継続して受診する利用者もいる。家族の都合が悪い時は職員が同行している。認知症外来の受診も同行し、職員が情報提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内病院から定期的に正看護師を配置しており、ご利用者の健康管理・医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご利用者の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、随時職員が見舞いへ伺いながら、情報交換し退院へ結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化に伴う対応の指針を作成し、説明を行っている。看取りについては、ご利用者ご家族が希望された上で、医療行為が常時必要な状態でなければ、可能な限りの対応を実施している。	家族会でも終末期のケアや看取りに対する質問がある。家族の不安な気持ちに寄り添い、事業所としてできる限りの最大の支援で取り組むことを伝えている。入院を選択する家族がほとんどで、看取りはまだ経験していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成しており、病院やリーダー、管理者へ報告、連絡、相談を徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に避難訓練を実施している。スプリンクラー設置、自動ドアの火報連動工事を施工済みである。	研修を行い、職員全員でマニュアルを確認し、災害対策について学んだ。消防署からも生命の安全を守る為のアドバイスをもらっている。地域の協力体制を築く策を検討中である。	引き続き、地域の人達の参加をお願いし、一緒に訓練を行う実践的な取り組みに期待したい。避難後の見守り等の具体的な役割を明確にし、確実な避難に繋げて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレについては、プライバシーの確保に努めている。また全職員が、ご利用者の人格を尊重した言葉かけを心掛けている。	研修で確認し、職員の意識付けを図っている。浴室のドアの外に「入浴中」の立て看板を出したり、居室ののぞき窓にカーテンを付けたりして、プライバシーを守っている。本人の気持ちを大切に考え、さりげない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に合わせた声かけ、傾聴を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしよう心掛けているが、入浴や行事など職員の働きかけで行っているものもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択など出来るだけ希望を伺うようにしているが、職員が決めている場面も多い。毎月理容師に来てもらい身だしなみを整えている。外出時は、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや下膳などを手伝っていただきながら、一緒に食卓を囲み、楽しく食事出来るよう支援している。手伝える方にはお皿やお盆拭きなどをさせていただいている。	家族アンケートに「きれいに盛り付けられ、食べやすい様に工夫している」という意見があった。メニューの説明をしたり、食が進むように声かけをしたりして、食事への関心を引き出している。職員と一緒にギョーザやホットケーキを作って楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を行い、必要なご利用者には水分量のチェックも行っている。水分摂取の少ない方には飲んでいただけるよう声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また、提携している歯科医による居宅療養管理指導を、希望されたご利用者へ実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意を表せないご利用者には、時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	一人ひとりの能力や排泄パターンに合わせて、できるだけトイレで、気持ちよく排泄できるように支援している。申し送りで情報を共有し、職員全体で自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各ご利用者の排便チェックを行って間隔を把握し、運動や水分摂取を促す。また、必要時にはヨーグルトやバナナなどを用いたり、医師に相談して緩下剤を処方して頂くなどの対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回として職員側が入浴予定表を作成しているが、ご利用者の状態や希望を取り入れながら、回数の変更やタイミングをずらす等柔軟に対応している。	午後から、1日3人程度入浴している。希望があれば毎日の入浴も可能で、全身の健康状態のチェックや精神状況の把握にも留意している。拒否の人もいるが、家族に協力してもらい、一緒に誘導する等、工夫して入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要なご利用者には、昼間でも短時間居室で横になっていただくなど、個々に合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	囲碁・将棋、書道、アコーディオン、ハーモニカ等のボランティアに来ていただいている。また、毎月いろいろな行事を開催し、ご利用者が楽しめる機会を増やすよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見・夏祭り・ドライブ・喫茶など、年間を通してみんなで外出または外気に触れる機会を作っており、ご家族の参加も歓迎している。天気の良い日は、近所への散歩などを実施している。	以前は家族と共に全員で後樂園に出かけたこともある。最近は少人数で喫茶店にお茶を飲みに出かけているが、全員で出かけたいため、職員からの提案があった。大型商業施設に出かけ、外食を楽しみ、利用者と職員両方の気分転換を図った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心や満足に向けて、希望されるご利用者には、少額でも所持金を持っていただけるように対応するなど、家族と相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて、電話をしたり手紙を出せるように支援をしてる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物で季節感を取り入れている。また気候に応じた温度・湿度管理にも努めている。	天窓からの光と暖色の照明で、落ち着いた雰囲気になっている。乾燥期には加湿器と共に濡れタオルを干して湿度管理している。畳コーナーがあり、ゆっくり座れるソファも置いてあり、思い思いの場所でくつろいで過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やホールの壁際にソファを置き、居心地のよい空間を作るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の心身状況に合わせて、ご家族に相談しながら行っている。	一人ひとりの動線と安全に配慮して、家具を配置している。使い慣れた机と椅子を持ち込み、日記を書いている人もいる。その人らしい居室となり、一人の時間も落ち着いて過ごすことができるように検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりの設置で、安全に歩行できるよう工夫している。またトイレに貼り紙をして場所が分かりやすくなるような工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106092		
法人名	医療法人社団 三樹会		
事業所名	グループホームきびの里		
所在地	岡山市北区庭瀬149-1		
自己評価作成日	平成28年12月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JievosyoCd=3370106092-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成28年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の特性を活かし、医療との連携を行っている。受診支援・医師の往診・正看護師の配置など、利用者の体調の変化に素早く対応出来る体制をとっている。また地域の町内会に加入して老人クラブや子ども会との交流を図っており、また地域にある短大・大学からも体験学習・ボランティアの受け入れなどを積極的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「信頼」という法人の理念を玄関や事務所に掲示し、毎日の朝礼時に職員で唱和を行い意識の向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入しており、溝掃除や公園の草取りなどに参加し、町内会総会などへも参加している。事業所の夏祭りへは近隣の方へ声をかけ、老人クラブや子ども会の方達も参加して下さっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にある短大・大学からの体験学習・ボランティアの受け入れなどを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者やご家族の代表にも出席して頂き、現在の取り組みを報告のほか、参加メンバーからいただいた意見や提案をホームで話し合い、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員または地域包括支援センター職員に運営推進会議へ参加して頂き、介護サービス上での相談などにも応じて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は可能な範囲内で施錠を行わず、ご利用者が外へ行きたい時には付添にて対応するよう努めている。身体拘束防止に関するマニュアルを用意し、事業所内で勉強会を実施して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関するマニュアルを用意し、事業所内で勉強会を実施して虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中には、成年後見人制度を申請した方もおられ、書類作成などにおいて、協力・支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に時間を取り、丁寧に説明をしている。改訂については家族会や面会時に説明し、理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、家族会を開催して意見交換を図っている。面会時にも意見や要望を伺い、それを基にしてホーム内で話し合い、反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より管理者やリーダーと職員との意見交換を行い、ミーティングや朝礼にて伝達し、必要時には申し送りノートへ記載して周知を図っている。また年2回、人事考課のフィードバック面接を行い職員の意見を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるように働きかけている。また、能力給を導入し、努力が処遇に反映できる制度となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を随時提示し、職員が選んで研修を受けている。法人内の勉強会にも参加しており、事業所内での勉強会は様々なテーマを挙げて、それぞれ担当を決めて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議へ地域の同業者に参加して頂き、相互の情報交換を行っている。また、お互いの行事に参加させていただくなど、交流する機会づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご利用者の状態を理解し、より信頼関係を構築しやすい環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に時間を取り、ゆっくり話を伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時にじっくり話を聞き、ニーズを把握して、確認するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事、得意な事を勧めつつ、時には一緒にいたり、職員の知らない事であれば教えて頂くことで、共に支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は何時でも自由とし、自室でもホールでもゆっくり話していただけるよう配慮している。面会時には最近のご様子を伝える。通信やブログで行事などの様子を報告しているが、現在リニューアルのため休止中。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に愛用されていた物の持ち込みを勧めている。また、外出・外泊はいつでも歓迎している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・お茶・レクリエーション等、皆で楽しく過ごす時間を持つようにしている。また、職員が調整役となり利用者同士の関係が円滑になるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への入院により利用が終了した場合は、職員や他の利用者がお見舞いに行く等の対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員ごとに担当するご利用者を定めて、日々の関わりの中で傾聴を心掛けている。またご家族との意見交換の中心的役割も担い、希望・意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談および他施設からの情報提供により、ご利用者の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月ユニットミーティングにてご利用者の現状について話し合い、ご利用者一人ひとりの生活リズムを理解するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族と話し合い、ご利用者のアセスメントを行い、毎月のミーティングで職員間でも意見交換をしながら、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の観察記録を用いて日々の暮らしの様子を記入し、また一ヶ月ごとの健康チェック表では食事量・水分量・服薬・排泄などを記載して、情報の共有とケアプランへの活用に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の意向を配慮し、ご家族に宿泊もして頂けるよう準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、民生委員や地域包括支援センター職員より、周辺情報に関する情報をいただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別で月2回の主治医による往診を実施している。医療機関受診の場合は、職員が送迎し、付添っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内病院から定期的に正看護師を配置しており、ご利用者の健康管理・医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご利用者の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、随時職員が見舞いへ伺いながら、情報交換し退院へ結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化に伴う対応の指針を作成し、説明を行っている。看取りについては、ご利用者ご家族が希望された上で、医療行為が常時必要な状態でなければ、可能な限りの対応を実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成しており、病院やリーダー、管理者へ報告、連絡、相談を徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に避難訓練を実施している。スプリンクラー設置、自動ドアの火報連動工事を施工済みである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレについては、プライバシーの確保に努めている。また全職員が、ご利用者の人格を尊重した言葉かけを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に合わせた声かけ、傾聴を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしよう心掛けているが、入浴や行事など職員の働きかけで行っているものもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択など出来るだけ希望を伺うようにしているが、職員が決めている場面も多い。毎月理容師に来てもらい身だしなみを整えている。外出時は、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや下膳などを手伝っていただきながら、一緒に食卓を囲み、楽しく食事出来るよう支援している。手伝える方にはお皿やお盆拭きなどをしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を行い、必要にご利用者には水分量のチェックも行っている。水分摂取の少ない方には飲んでいただけるよう声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また、提携している歯科医による居宅療養管理指導を、希望されたご利用者へ実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意をさせないご利用者には、時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各ご利用者の排便チェックを行って間隔を把握し、運動や水分摂取を促す。また、必要時にはヨーグルトやバナナなどを用いたり、医師に相談して緩下剤を処方して頂くなどの対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回として職員側が入浴予定表を作成しているが、ご利用者の状態や希望を取り入れながら、回数の変更やタイミングをずらす等柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要なご利用者には、昼間でも短時間居室で横になっていただくなど、個々に合わせた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	囲碁・将棋、書道、アコーディオン、ハーモニカ等のボランティアに来ていただいている。また、毎月いろいろな行事を開催し、ご利用者が楽しめる機会を増やすよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見・夏祭り・ドライブ・喫茶など、年間を通してみんなで外出または外気に触れる機会を作っており、ご家族の参加も歓迎している。天気の良い日は、近所への散歩などを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心や満足に向けて、希望されるご利用者には、少額でも所持金を持っていただけるように対応するなど、家族と相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて、電話をしたり手紙を出せるように支援をしてる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物で季節感を取り入れている。また気候に応じた温度・湿度管理にも努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やホールの壁際にソファーを置き、居心地のよい空間を作るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の心身状況に合わせて、ご家族に相談しながら行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりの設置で、安全に歩行できるよう工夫している。またトイレに貼り紙をして場所が分かりやすくなるような工夫をしている。		